



開脚する光泉高の山田投手と、体の状態を見る山内さん(右)=彦根市中央町で

治療するのは、福井県大野市に総合診療所を開く柔道整復師の山内敏夫さん(60)。滋賀県内では、長浜市で開業していた兄の整骨院を引き継ぎ、十年ほど前、彦根市に移り、総合診療所の出張所として整骨院を開いた。

山内さんは二十五年前、彦根市に移り、総合診療所の出張所として整骨院を開いた。山内さんは二十五年前、彦根市に移り、総合診療所の出張所として整骨院を開いた。

光泉高の野球部員が通うようになったのは、腰痛のあった山田篤史、西条耕太朗両投手が治療を受けたのがきっかけ。山田投手の体は硬かったが、次第に柔軟性が生まれて投球フォームが変わり、球の勢いが増したという。両投手の話聞き、疲労骨折が原因で発症し、腰痛を伴う「腰椎分離症」の選手たちも訪れるようになった。

部員たちは週に一度、部活を休んで電車で四十分ほどかけて整骨院へ。山内さんとや

りとりしながら、サンドバッグを蹴ったり、百八十度開脚をしたりしている。

山田投手は「スピードと制球が良くなった」と振り返り、伴佑弥外野手は「送球の強さが上がった。さらに精度を良くしていきたい」と意気込む。

今月四日にあった春季県大会の決勝では、山田投手が先発。西条投手が継投して相手の

追撃を抑え、優勝に貢献した。

山内さんは「治療すれば、もともと持っている能力を発揮できるようになり、大学やプロでも活躍できる実力のある選手になれる。そうした意欲のある選手を受け入れられる環境にしていきたい」と話している。

彦根の山内整骨院

股関節の治療法考案

初優勝 春県大会 光泉高球児らに効果

彦根市中央町の山内整骨院が、股関節治療で効果を上げ、スポーツ選手たちの関心を集めている。先の春季近畿地区高校野球県大会で初優勝した光泉高校(草津市)の野球部員五人も足掛け通っている。(木造康博)

